



KYOTO EXPERIMENT Office
6F 7th Hase Bldg.
229-2 Shoshoi-cho, Nakagyo-ku, Kyoto
604-0862 JAPAN
Tel +81 75 213 5839 Fax +81 75 213 5849

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN アーティスト第1弾発表！

国内外の「EXPERIMENT(エクスペリメント)=実験」的な
舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を、
新しい形の対話でつなぐことを目指すフェスティバル、
「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN」の
第1弾アーティスト発表として、
4組の参加アーティストをお知らせいたします。
また、KYOTO EXPERIMENT初の公募プログラムとして
2021-2022年の2年にわたり、
THEATRE E9 KYOTOの空間で実験的な試みをする作品のプランを募集し、
パフォーマンス・ユニットのチーム・チープロを選出したことをご知らせします。
プログラムの全容発表は7月28日(水)です。
どうぞお楽しみに！

☞ 参加アーティスト

荒木優光

関かおり / 関かおり PUNCTUMUN

松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ

和田ながら × やんツー

会期 ☞ 2021年10月1日(金)-10月24日(日)[24日間]

会場 ☞ ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTOほか

主催 ☞ 京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、
京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、
京都芸術大学 舞台芸術研究センター、THEATRE E9 KYOTO(一般社団法人アーツシード京都)]

☞ プログラム全容は、2021年7月28日(水)に行う記者会見にて発表予定。

☞ 最新情報はウェブサイトをご覧ください。

kyoto-ex.jp

リリースに関するお問合せ先 ☞ KYOTO EXPERIMENT 事務局 (担当: 豊山、前田)

☎ 604-0862 京都市中京区少将井町 229-2 第7長谷ビル 6F Tel: 075-213-5839 Fax: 075-213-5849 Mail: pr@kyoto-ex.jp

☞ ディレクターズ・メッセージ

新体制のもと最初のフェスティバルを2021年春に迎えた KYOTO EXPERIMENT は、続いて秋の開催に向けて準備を進めています。春に始動した3つのプログラム Kansai Studies (リサーチプログラム)、Shows (上演プログラム)、Super Knowledge for the Future [SKF] (エクステンジブプログラム) の連関性を一層強めながら、パンデミックの影響でともすると内に向かいがちなわたしたちの想像力を、改めて外に接続させるフェスティバルを目指しています。

この度、Shows への参加アーティスト第1弾発表ができることを喜ばしく思います。春のプログラムに引き続き、関西における芸術文化の文脈を掘り起こし発展させていくこと、また分野横断的なコラボレーションから新たな表現を生み出すことに注目しながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が未だ続く中で、いまわたしたちが耳を傾けるべき「身体」の声に着目しました。これらのアーティストが、いまここにある、あるいはここにはない身体への想像を想起させ、知らず知らずのうちに閉じてしまった対話の回路を開いてくれることを確信しています。

KYOTO EXPERIMENT として初めて行った作品プラン公募では、23件の応募をいただき、その中から東京を拠点とするパフォーマンス・ユニット、チーム・チーフプロを選出しました。この公募は、フェスティバルが参加アーティストや作品を決定する過程を更新するものと位置付け、また複数年にわたる創造と発表をサポートすることで、実験的表現が生まれるプロセスを育むことを目指し実施したものです。選出にあたっては、THEATRE E9 KYOTO で上演する意義、2年間を通した作品テーマやプランの発展性、舞台芸術としての拡張性の3点に留意しました。

プログラムの全容発表まで、引き続きどうぞご注目ください。

KYOTO EXPERIMENT 共同ディレクター
川崎陽子 塚原悠也 ジュリエット・礼子・ナツ

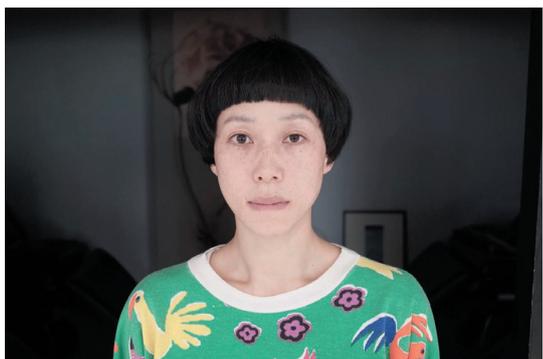
☞ 参加アーティストプロフィール



撮影：前谷開

荒木優光 Masamitsu Araki

1981年山形県生まれ。京都拠点。アーティスト、サウンドデザイナー。音の体験やフィールドワークを起点として独自の音場空間を構築する。近年は視聴覚空間の多様性を踏まえ、新たなフェーズとしての「再生」を軸として実践と考察を進める。近作に、個展「わたしとゾンビ」(京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル、2020)など。2013年初演の『パブリックアドレス-音場』が2021年、Kunstenfestivaldesartsに招聘された。またサウンドデザイナーとしてアーティストとのコラボレーションも多く、記録にまつわる作業集団 ARCHIVES PAY、音楽グループ NEW MANUKE のメンバーとしても活動する。



撮影：久保井康雄

関かおり / 関かおり PUNCTUMUN

Kaori Seki / KAORI SEKI Co. PUNCTUMUN

関かおり PUNCTUMUN (プンクトゥムン) 主宰。ヒトや動植物の生態や感覚機能、言語外コミュニケーションなどに興味を持つ。視覚を通して観客の皮膚感覚等に働きかける試みや、嗅覚から得る刺激を作品要素に取り入れた作品を国内外で上演。2012年岩渕貞太との共作により、横浜ダンスコレクション 若手振付家のための在日フランス大使館賞、同年トヨタ コレオグラフィーアワード 2012次代を担う振付家賞、2013年エルスール財団新人賞、2017年日本ダンスフォーラム (JaDaFo) 賞 2016受賞。2014-17年度公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー。2021年度よりセゾン・フェロー II。



松本奈々子、西本健吾 / チーム・チープロ

Nanako Matsumoto, Kengo Nishimoto / team chiipro

松本奈々子と西本健吾によるパフォーマンス・ユニット。身体と身振りの批評性をテーマに活動を続けてきた。近年は、都市における具体的な場所や時間から一つのステップを見出し、そのステップが喚起する複数のコンテキストとパフォーマーの身体感覚や記憶の交差をあつかうダンス作品を制作している。主な作品に、『20世紀プロジェクト』(2017-2018)、『皇居ランニングマン』(2019-2020)など。

和田ながら×やんツー

和田ながら Nagara Wada



撮影: 守屋友樹

2011年2月に自身のユニット「したため」を立ち上げ、京都を拠点に演出家として活動を始める。日常的な視力では見逃し続けてしまう龐大な細部を言葉と身体で接写する、あるいは捉えそこないつまづくさまを連ねるように作品を制作。美術家や写真家など異なる領域のアーティストとも共同作業を行う。2015年、創作コンペティション「一つの戯曲からの創作をとおして語ろう」vol.5最優秀作品賞受賞。2018年、こまばアブラ演出家コンクール観客賞受賞。2019年より地図にまつわるリサーチプロジェクト「わたしたちのフリーハンドなアトラス」に取り組んでいる。2021年度セゾン文化財団セゾン・フェローI。

やんツー yang02



撮影: 大森大祐

1984年神奈川県生まれ。2009年多摩美術大学大学院デザイン専攻情報デザイン研究領域修了。人間の行為を情報技術が代替する自律型の装置を作品として制作。デジタルメディアを基盤に、人間の身体性や表現の主体性を問う。菅野創との共同作品『SENSELESS DRAWING BOT』で、第15回文化庁メディア芸術祭アート部門新人賞(2012)を、同じく『アバターズ』で第21回優秀賞(2018)を受賞。近年の個展に「_pryground」(rin art association、群馬、2019)。展覧会に、「DOMANI・明日展」(国立新美術館、東京、2018)、「Vanishing Mesh」(山口情報芸術センター[YCAM]、2017)、あいちトリエンナーレ2016(愛知県美術館)などがある。

和田ながら×やんツー「擬焼」^{ぎべん} 出演者募集

演出家の和田ながらが2019年に初演した演劇作品『擬焼』を、コラボレーターに美術家のやんツーをむかえ再創作します。「擬焼」とは、妻の出産前後にその夫が妊娠にまつわる行為を模倣するという風習のことで、その演劇的な要素を借りて舞台作品をつくります。再創作にあたり、一緒に作品づくりに取り組む10-18歳までの若い世代の出演者を募集します。

応募締切: 7月21日(水)

応募要項の詳細はウェブサイトをご覧ください。